

自薦句

令和二年四月〜令和三年三月の代表作を紹介します。

船虫や生きることとは逃げること	廣崎 龍哉
樹々の青色深まりて梅雨明ける	率川 清昭
虫の音の途切れて妻の寝息かな	石崎 玄舟
ぐうの手のほどけるやうに梅咲けり	大野 耕一
母の背の赤子の笑みやさくらんぼ	大場 繁好
小春日や谷戸の社に人あふれ	各務 清
堂守の掃き残せしかこぼれ菽	柏瀬やすし
虹立つや声を上げる子駆けだす子	島村 忠男
ふるさとは親戚多し桃の花	清水 豊春
すがる葉にたたむ命や冬の蝶	杉村 良月
古民家の振り時計や春の昼	高橋 尤子
山裾の木々一斉に芽吹きけり	角田のぼる
菊雛や海鼠壁なる漁師町	角田 夏瑚
枝に星点る晴夜の枯木立	二山たか志
剃刀の切れ良き朝や風薫る	野木未希男
サングラス外す男の柔和な目	桧垣 邦夫
手刀で人混み分けて夏祭	増田かつを
冴え返る無縁墓石の集積場	宮澤 進
さへずりや家に籠りて菓子を焼く	山口 一江
春籠り猫語のわかるやうになり	山本 杖空
辛夷咲く岬の鼻の遭難碑	山本 達也